

平成 28 年度 全国学力・学習状況調査 箱根町立小・中学校の調査結果について

平成 28 年 4 月 19 日に実施された全国学力・学習状況調査の箱根町の結果をまとめました。

1 調査の目的（文部科学省より）

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

2 調査の概要

箱根町では、4校、124人（町立小学校54人、町立中学校70人）の児童・生徒が参加した。
内 訳：町立小学校3校全6年生、町立中学校1校全3年生

3 調査内容

（1）教科に関する調査（国語，算数・数学）

◆主として「知識」に関する問題（A）

- *身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- *実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

◆主として「活用」に関する問題（B）

- *知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- *様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

（2）児童生徒に対する調査

- *調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

4 結果の概要

（1）教科に関する調査結果の分析内容について

◇小学校

【国語】

全体的に無解答率は全国、県や本町の昨年度の結果と比べると低くなっており、多くの児童が問題に対して前向きに取り組んでいることがうかがえる。

Aの調査では「漢字を読む」問題は概ね良好であり、100%正答した漢字もあるが、「漢字を書く」問題では昨年同様課題が見られた。箱根ミニマムへの日常的取組の継続と日頃から習得した漢字を使って文章を書く指導が必要である。また、「ローマ字」については21年度以来7年ぶりの出題であった。全国的にも正答率が低かったが、本町はさらに下回った。第3学年での指導事項であるが、情報機器の活用等を考慮し継続的な指導が必要である。

Bの調査では、全体的に課題が見られた。目的に応じて複数の本や文章を比べ、自分の考えを明確にしながら読むことは概ね良好であるが、目的や意図に応じて図表やグラフなどの資料を基に、自分の意見を条件に合わせ、決められた字数で文章を書く問題に課題が見られ、無解答率もやや高かった。

【算数】

全体的に、無回答率は、昨年度の結果より大幅に低くなっていた。

Aの調査では、「四則計算」は全国平均正答率と同程度である。特に、「(整数) ÷ (小数) の計算」「約分のある(分数) × (整数) の計算」「数の大小関係」の3問題について正答率100%の学校もあり、箱根ミニマムも含め、日常的な取組の成果と考えられる。「直方体の面と面の位置関係」の問題は、各校とも全国平均正答率を大きく下回っていた。具体物の観察や操作を通して理解する必要がある。「場面の読み取りと立式、百分率」の問題では、全国平均正答率を上回っている学校もあった。高い正答率の学校の取組を共有していく必要がある。

Bの調査では、「図形の構成と論理的な考察(三角定規でつくる形)」の正答率が、3校とも全国平均正答率を大きく上回った。逆に、日常生活の問題の解決のために式や図形の性質を用いて判断する問題や必要な情報から読み取れることを判断する問題が全国平均正答率を大きく下回っていた。筋道を立てて考え、判断の根拠を説明したり、説明を振り返ったりする場面を取り入れていく必要がある。

◇中学校

【国語】

Aの調査では、全体的に全国平均正答率と同程度であった。文脈の中で適切に敬語を使うことができるかどうかみる問題では、正答率100%であり、「おもてなしの心」が生徒たちに根付いていると思われる。また、辞書を活用して漢字の意味を正しくとらえる問題や、集めた材料を整理して文章を構成する問題は、全国平均正答率を上回っているが、文の成分の照応についての問題や歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題では、全国平均正答率を下回っていた。このことから、文法用語や学習用語の理解ができていない可能性が考えられる。

Bの調査では、必要な情報を読み取る問題では全国平均正答率を上回っているが、材料を集め自分の考えをまとめたり、自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。

【数学】

Aの調査では、「基本的な計算力」は徐々に向上し、全国平均正答率と同程度である。しかし、「分数と小数の混ざった乗法」の問題は、小数点の位置を誤ったり、小数と分数の関係が十分理解できなかったりしたので、全国平均正答率を下回った。図形領域では、「三角形の合同条件」を理解し考察することや、「図形の性質や条件を記号で表現」する能力では、全国平均正答率を大幅に上回った。関数領域では、「比例、反比例の関係を問う」問題は、比例の特徴を理解し増加量を求めるなど、全国平均正答率を上回ったが、反比例の具体的な事象を考察しグラフから式を導くことでは、全国平均正答率を下回った。また、「一次関数」の問題は、事象・式・表・グラフ・変域を関連付けて考察することができず、正答率も低い。全体的には、用語の理解が不十分のため、正答を導き出せない問題がある。

Bの調査では、「与えられた条件を基に、2つの数量の変化や対応の特徴を捉える」問題は、前提となる条件を把握し、正答率も高い。逆に、「与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に処理する」「事象を数学的に考察し、道筋を立て問題解決を探る」問題は、無解答が多く、正答率も低い。今後、問題解決に向け、見通しを立てたり、過程の振り返りの機会を増やしたりする必要がある。

(2) 児童生徒に対する質問紙調査結果の分析内容について

【小学生の質問回答より】

- 学校の授業時間以外における1日当たりの学習時間について、昨年度の本町の状況と比べ2時間以上勉強する児童の割合が減少しており、宿題や自主学習に取り組む、工夫改善が求められる。
- 学校の授業時間以外に、4割近くの児童が、毎日30分以上読書をしており、全国を上回っている。また、7割以上の児童が「読書が好き」と答えていた。
- 8割近くの児童が、地域行事に参加している。さらに、4割以上の児童が、地域社会などでボランティア活動に参加したことがあり、地域との関わりを深めている児童が多い。
- 授業では、自分の考えを発表したり、学級の友達との間で話し合ったりする学習活動の充実について、昨年度の本町の状況よりも大幅に改善が見られる。

【中学生の質問回答より】

- 学校の授業時間以外における1日当たりの学習時間について、2時間以上勉強をしている生徒の割合は、昨年度の本町の状況よりもさらに改善が見られるが、30分未満も多い。
- 毎日30分以上読書をする生徒は、全国とほぼ同等の割合であり、「読書は好きだ」と答えている生徒は全国を上回っている。
- 7割の生徒が地域行事へ参加している。さらに、7割近くの生徒が、地域や社会で起こっている出来事について関心の高まりがみられる。
- 昨年度以上に、「総合的な学習の時間」の授業で学習したことが将来役に立つと考えている生徒の割合が増加した。さらに、「生徒が自ら課題を立てて、調べたことを発表する学習活動に積極的に取り組んでいる。」と回答した生徒の割合も増加している。
- 授業では、自分の考えを発表したり、生徒間で話し合ったりする活動を行い、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えることや、自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表していたと回答した生徒が全国を上回った。